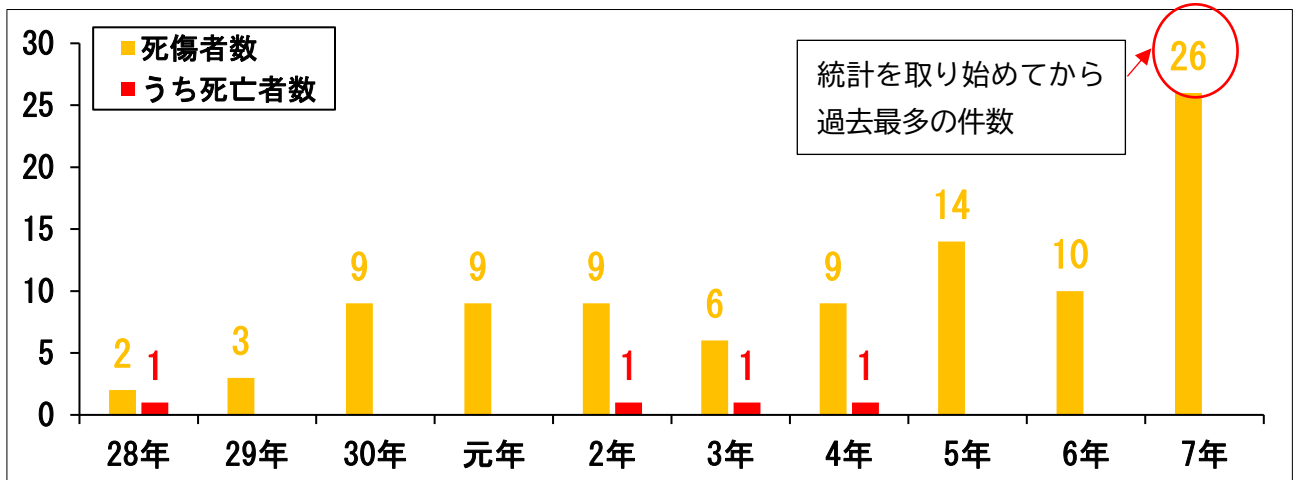


1 熱中症による労働災害の経年推移

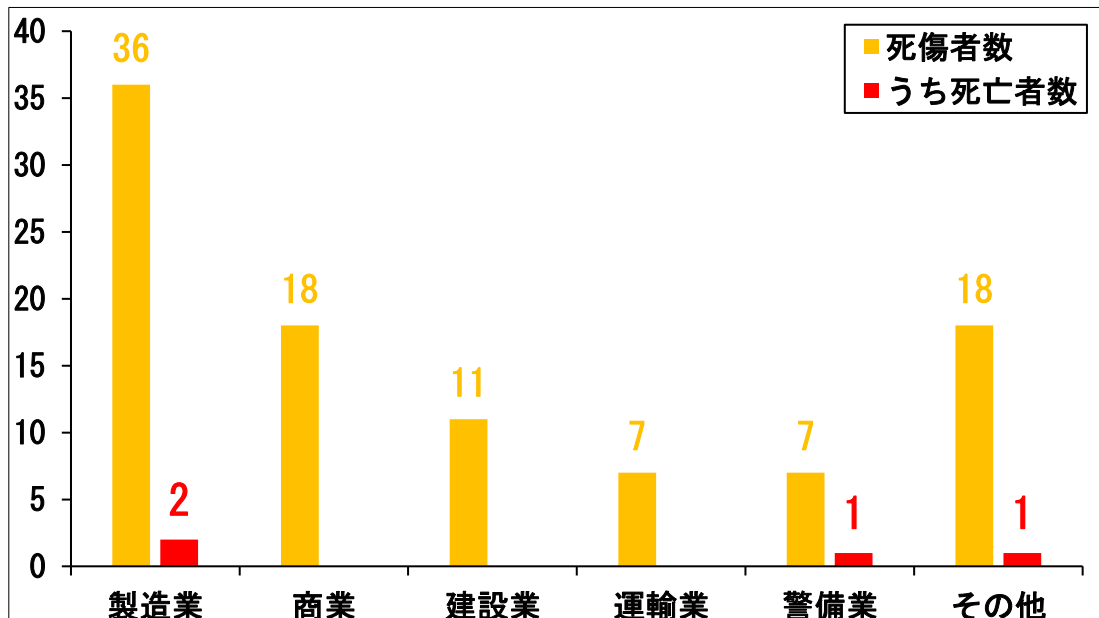


出典：労働者死傷病報告

令和7年の滋賀県における熱中症による死傷者数は26人と、統計を取り始めた平成17年以降、最多となったが、死亡者は3年連続で0人となった。

気象庁によると、令和7年6～8月の平均気温偏差（基準値（1991～2020年の30年平均値）からの偏差）は、+2.36℃と、統計開始以来最高を記録しており、休業4日以上死傷者数の増加の一因となったと推測される。【参考資料3】

2 過去10年間（平成28年～令和7年）における熱中症の業種別発生数

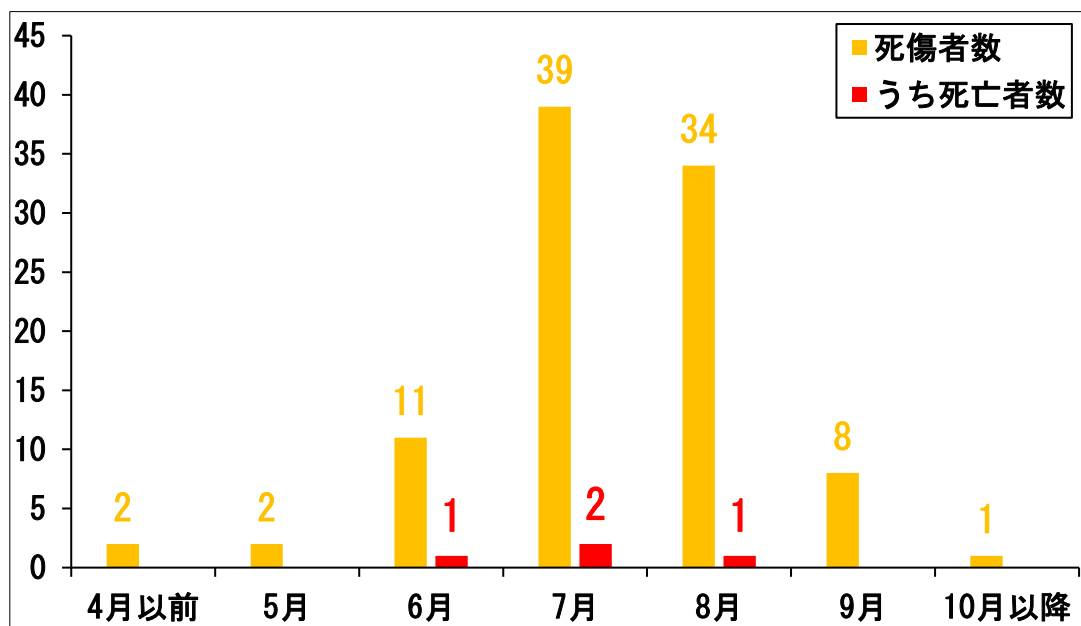


出典：労働者死傷病報告

過去10年間の熱中症による死傷者数を業種別に見ると、製造業が約4割を占めており、次いで、商業、建設業、運輸業、警備業が多くを占めている。令和7年の死傷者数は顕著に増加したが、業種別の発生割合について大きな変化はない。

なお、熱中症による死亡者は、過去10年間では、製造業で2人、警備業、清掃業で各1人発生している。

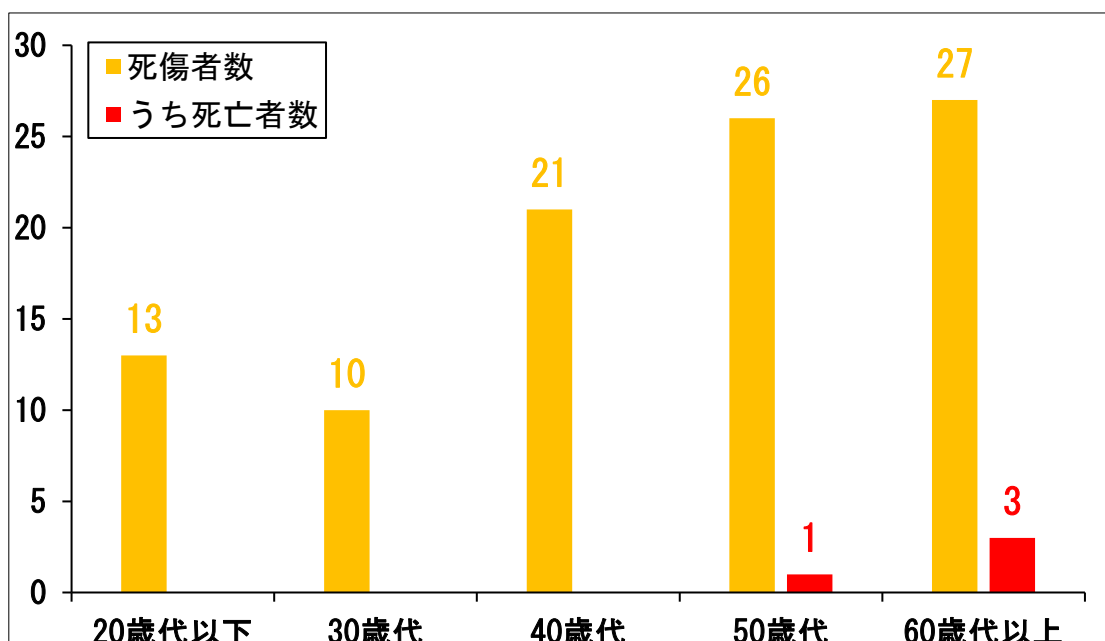
### 3 過去10年間（平成28年～令和7年）における熱中症の月別発生数



出典：労働者死傷病報告

過去10年間の熱中症による死傷者数、死亡者数を発生月別に見ると、気温の高い7～8月に集中しているが、それ以外の月でも発生している。

### 4 過去10年間（平成28年～令和7年）における熱中症の被災者の年齢別発生数



出典：労働者死傷病報告

過去10年間の熱中症による死傷者数、死亡者数を年齢別に見ると、年齢に応じて増加傾向にある一方で、20歳代以下の年齢層においても一定数発生があり、熱中症は年齢にかかわらず、すべての年齢層で発生している。